

大会スローガン ストップ・ザ・格差社会!すべての働く者を連合の輪へ 「安心社会」を切り拓こう!



写真左上/あいさつする本川博孝会長

11月16日(水)白兔会館(鳥取市)において、来賓・代議員・役員を合わせ総勢180人(代議員114人・特別代議員3人・執行部32人/うち女性代議員15人・13.2%)の参加のもと、「第24回定期大会」を開催し、2016年度活動・決算報告ならびに2017年度活動方針、予算を提案し満場一致で承認されました。

来賓のみなさま



※井上久美枝連合総合男女平等局総合局長、林 昭男鳥取県副知事をはじめとする多くのご来賓にご臨席いただき、連帯のごあいさつをいただきました。

※ごあいさついただいた来賓のみなさま

写真上段/井上久美枝 連合総合男女平等局総合局長(左・中央)

林 昭男 鳥取県副知事(右)

◦中央/内田敏之 鳥取労働局長(左)

伊藤 保 民進党鳥取県総支部連合会代表(右)

◦下段/湯原俊二 民進党鳥取県総支部連合会 副代表

※多くの祝電・メッセージもいただきました。



大会・議案討議の様子



開会あいさつ
寺谷昭人副会長



祝電披露
馬場一憲副事務局長



議長団
野村 香織代議員(JR連合)(右)
坂本智津子代議員(JAM)(左)



活動報告・議案提案
田中 穂事務局長



【左から】
吉田 正副事務局長



役員推薦委員会報告
松崎浩哉委員長

新規加盟組織あいさつ



紙バ連合「丸彦産業労働組合(102人)」を代表してあいさつする 榎尾 剛執行委員長



JAM「TVCユニオン(331人/鹿原文裕執行委員長)」組織紹介する 福本和幸 JAM山陰鳥取地区協議会事務局長

【写真左より】

・紙バ連合「丸彦産業労働組合(102人)」を代表してあいさつする 榎尾 剛執行委員長

・JAM「TVCユニオン(331人/鹿原文裕執行委員長)」組織紹介する

福本和幸 JAM山陰鳥取地区協議会事務局長

退任役員

お世話になりました



森上さん

【退任役員】
前執行委員 中嶋 逸公(交通労連)
〃 山部 宏文(国税労組)
前会計監査 森上 章(全労金)

新役員

よろしくお願ひします



湯村さん



山下さん

【新役員】
執行委員 湯村 謙二(交通労連)
〃 内田 欣伸(国税労組)
会計監査 山下 孝次(全労金)

大会宣言

提案する
太田 女性委員長



10月21日に発生した、鳥取県中部を震源とする震度6弱を観測した地震は、鳥取県中部1市4町はもとより鳥取県全体の社会、経済に深刻な影響を及ぼしており、一刻も早い復興・再生が急がれる。

わが国は、少子高齢化・人口減少問題、非正規雇用の増大など持続可能性を脅かす構造的課題に加え、社会保障制度の維持に必要な安定的な財源が確保できないなど、将来への不安が絶えない。政府の政策パッケージであるアベノミクスは、約7割の国民が恩恵を実感していない。それどころか経済の好循環への道筋が依然見いだせず、格差が拡大を続け社会のひずみが顕著になっている。

私たちがめざすのは、すべての人が自分の居場所と出番を見出し、かけがえのない人生をたくましく生きることができる社会。すなわち、働くことに最も重要な価値を置き、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を通じて社会に参画でき、セーフティネットが組み込まれた「働くことを軸とする安心社会」の実現である。

いまこそ連合は、働く者・生活者一人ひとりの怒りを結集し、社会を変革する大きな力にかえ、集团的労使関係を社会の隅々にまで張りめぐらし、互いに支え合い、助け合い、ともに運動する仲間の輪を拡げていく。

われわれは、行動によって世論を喚起し働く者の声を結集することで、暮らしの「底上げ・底支え」、「格差是正」につながる政策を前進させなければならない。連合鳥取2万7千人が、総掛かりで社会の不条理に立ち向かい、すべての働く者・生活者の希望と安心を取り戻すために連帯して立ち上がろう。

2016年11月16日
連合鳥取第24回定期大会

一報告・運動方針への寄せられた質疑・ご意見(主旨)

⇒(青)執行部答弁



【写真左より】江口代議員(自治労)



内田代議員(紙バ連合)



棚田代議員(日教組)



生田代議員(JR総連)



長屋代議員(全国農団労)



濱崎代議員(情報労連)

・「沖縄問題は沖縄の人たちの問題」ではなく、「日本本土の人たちの問題」である。労働組合には平和と民主主義を進展させる義務と責任がある。運動方針に引き続き、連合鳥取として、平和の取り組みを前進されることを要望する。
 ⇒本部分方針にあるように「沖縄米軍基地の整理・縮小」、「日米地位協定の抜本的見直し」にも取り組んでいく。連合鳥取独自の現場・現実を知る「平和に関する現地学習会」や「ピースウォーク」は継続していく。

・「労働教育出前授業」について高く評価する。18歳選挙権拡大で「若年層の政治参加」が期待されたが、「政治に無関心であっても無関係でいられない」はずなのに、無関係になりつつあるのかもしれない。連合の掲げる「働くことを軸とする安心社会の実現」に向け、高校生、小中学生が、労働の意義、労働運動、労働組合の必要性や良さに触れる取り組みを要望する。
 ⇒「労働法」を知らずに社会に出るといことはあってはならないこと。労働組合の役割として、冊子「ザ・社会人」、「出前授業」などを活用し、これから社会に飛び出す若者に情報発信していきたい。

・次期衆議院議員選挙に向けて、鳥取1区の動向、具体的な動きを教えてください。
 ⇒1区は過去2回の選挙が空白区となっており、憂慮すべき状況だと認識している。民進党県連と意見交換と対策について議論を深めている。労働組合の立場で、政党が候補者を擁立するよう提言していきたい。

・「来年11月の定期大会には女性代表枠の定員数を3名増員」するとあった。女性活動家が少なく、その選出に向けた取り組みはどうされるのか。
 ⇒1年前に選出された女性代表執行委員には執行委員会等で建設的な発言もいただいている。来期以降については、来月の執行委員会で提起し立ち上げていく「役員推薦委員会」により前進ある結果を見出したい。

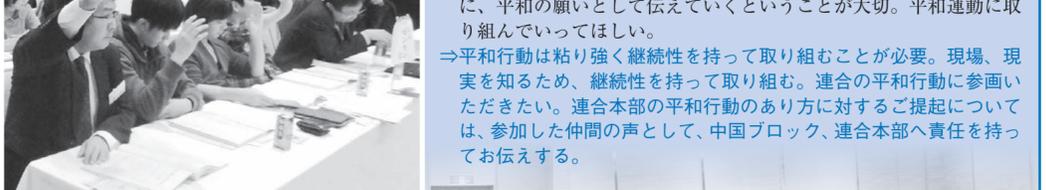
・10月21日に発生した「鳥取県中部地震」では、単組の方で判断されて、ボランティア、支援活動にいかれたところもあると聞いている。今後、「自然災害に対する取り組み強化を図る」とあるが、連合鳥取としてどのように強化を図っていくのか。連合鳥取が主体となってボランティア募集したら、「参加したい」と思っている人も出やすくなると思うが。
 ⇒全国各地から「できることはするよ」と非常に心温まる連絡をいただき、連合本部と連携し、特に、「安全」というところを含め、「連合が通常大人数で取り組むボランティアはない」という判断を下した。11月10日に現金(30万円)を直接、本川会長から倉吉市長と中部町村会会長(三朝町長)へお見舞金として手渡した。今後のことも含め、今回のことを検証し、即時対応できるような体制づくりを検討していきたい。

・世代交代が進んでいる中で今後の選挙戦術の中でどういうふうにしていくのか検討いただきたい。
 選挙区選挙については批判もあったが、「野党共闘の判断」はまだできないと思うし、他の1人区で野党が勝っているところに学ぶべき点は多くあると考える。

⇒第24回参議院選挙においてはみなさんには真夏の暑中、動員にご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。
 現状の「一強多弱」という国会の構成で、何か手を打たないと民進党を基軸とする政治体制とはならない。野党共闘は政党が取り組む課題ではあるが組合員までは伝わらず、一部の産別からも苦言をいただいた。
 野党側の候補者を一人に絞る取り組みは、政党がしっかり責任を持ってすべきである。我々は連合鳥取の立ち位置で、決めたことをしっかりとやるのが大事。連合鳥取として、我々が推薦した候補者を支援してまいります。

・連合の平和行動 in 沖縄、広島、長崎、根室の4行動について、実相を知る機会というところがだんだんと薄れてきていると感じている。戦争の愚かさや命の尊さを感じて、次代へ継いでいけるように、平和の願いとして伝えていくということが大切。平和運動に取り組んでほしい。

⇒平和行動は粘り強く継続性を持って取り組むことが必要。現場、現実を知るため、継続性を持って取り組む。連合の平和行動に参画いただきたい。連合本部の平和行動のあり方に対するご提起については、参加した仲間の声として、中国ブロック、連合本部へ責任を持ってお伝えする。



団 結 し て ガ ン バ ロ ウ !!